

令和6年ホヤ類調査結果速報 No. 1

令和6年6月28日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

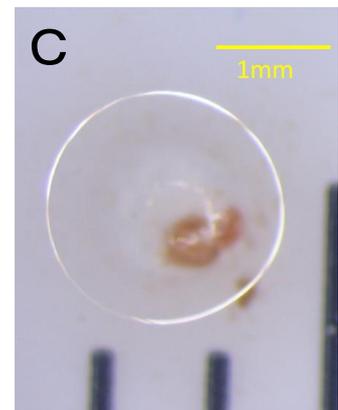
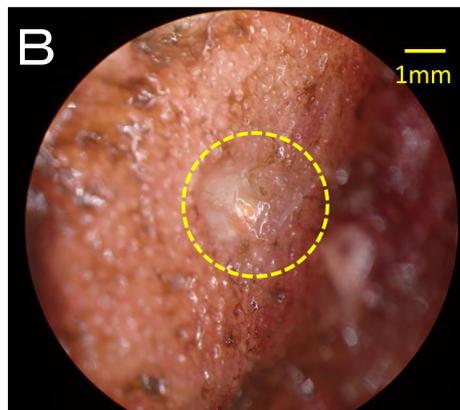
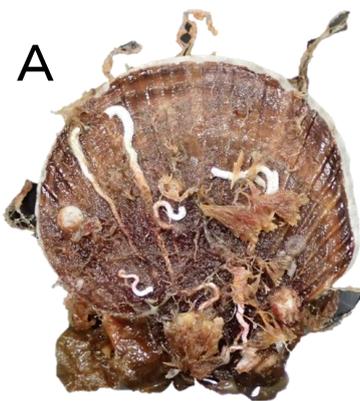
【アドレス：<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/hakodate/index.html>】

6月26日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 令和6年度調査を開始しました。
- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着数は、ホタテガイ1枚あたり平均0.3個でした。
- ヨーロッパザラボヤの平均サイズは1.7mmであり、最近付着した個体とみられます。肉眼での識別は困難です。
- 水温は平年よりも高く、20m層までヨーロッパザラボヤの産卵開始水温（13℃）を上回っています。そのため、平年よりも早く、広い水深帯で繁殖が本格化していると考えられます。

写真 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和6年6月26日 八雲地区



殻表面の外観 (A) および顕微鏡で確認されたヨーロッパザラボヤ (B) (C)。ヨーロッパザラボヤのサイズはいずれも2mm弱と小さく、肉眼で確認するのは困難です。

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和6年度有害生物（ザラボヤ）出現情報収集・解析及び情報提供事業で実施しています。

1. 耳吊りホタテ貝付着物調査

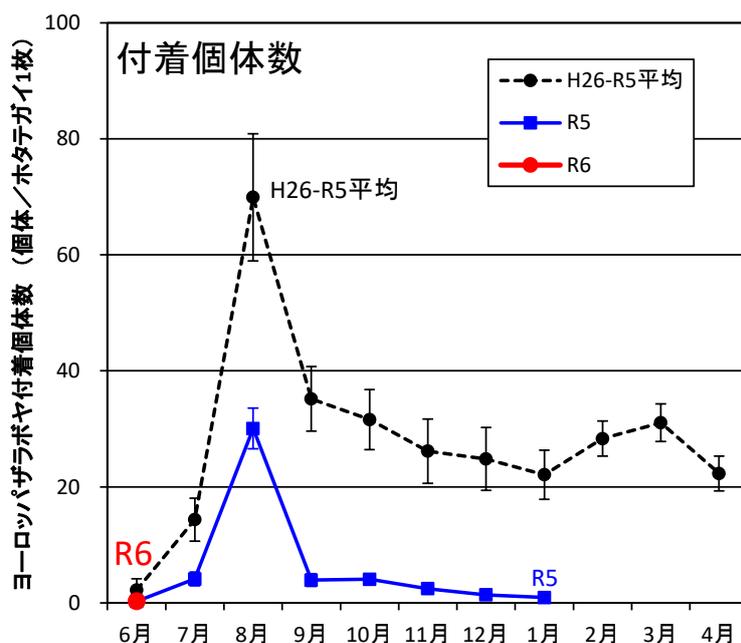
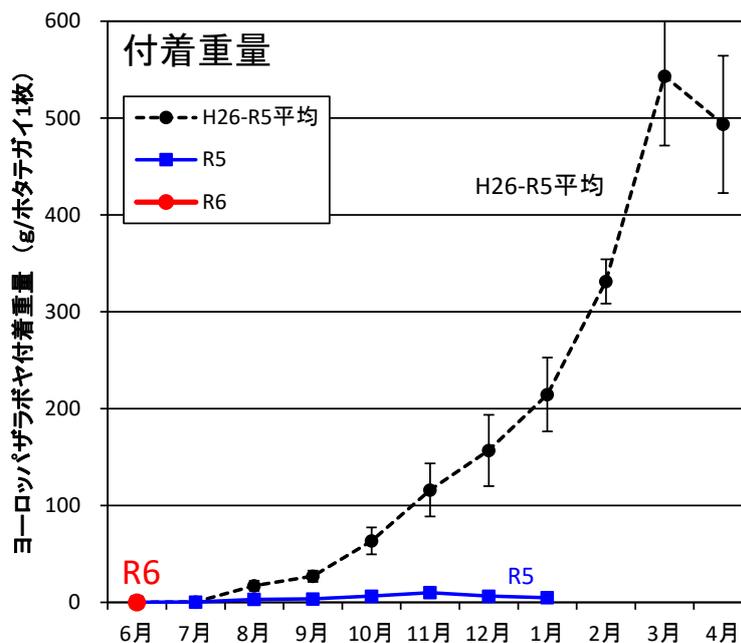
[調査月日：6月26日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚]

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました(写真)。ヨーロッパザラボヤの平均付着数はホタテガイ1枚あたり0.3個体であり(表1)、平年(2.2個体)を下回りました(図1)。ヨーロッパザラボヤの平均サイズは1.7mmであり、最近付着した個体とみられます。なお、昨年同時期の調査では付着直後の微小個体はみられず、耳吊り前に付着したとみられる10mm前後の個体のみでした。R6年の水温は全層で平年を上回っており、深度20m層までヨーロッパザラボヤの産卵水温(13℃)を上回りました。よって、平年よりも早く、広い水温帯でヨーロッパザラボヤの繁殖が本格化していると考えられます。

表1 付着生物調査結果(八雲地区：令和6年6月26日)

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	15.2g	10.2g	5.3g	10.2g
ヨーロッパザラボヤ	0.1g未満	0.1g未満	0.1g未満	0.1g未満
その他	15.2g	10.2g	5.2g	10.2g
ヨーロッパザラボヤ個体数	0.0個体	0.2個体	0.6個体	0.3個体
令和5年6月(R5.6.14) の個体数	0.0個体	0.6個体	0.2個体	0.3個体
令和4年6月(R4.6.26) の個体数	0.0個体	0.0個体	0.0個体	0.0個体
令和3年6月(R3.6.14) の個体数	0.0個体	0.0個体	0.0個体	0.0個体

図 1 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）

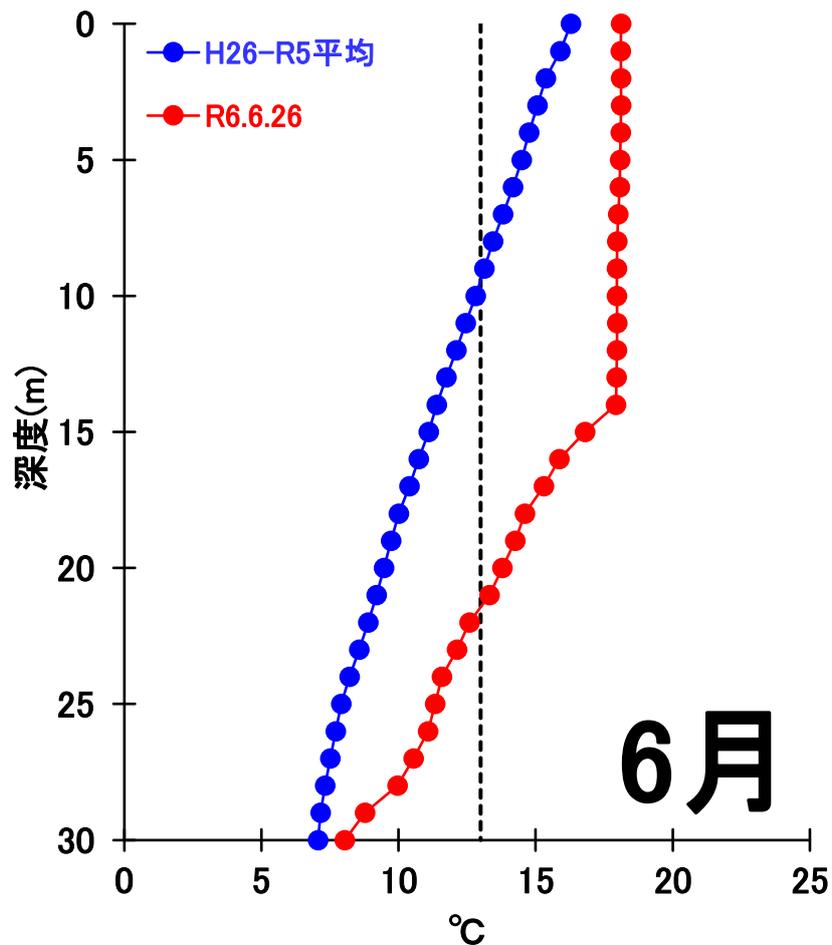


上：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去 10 ヶ年（H26～R5 年）のデータから、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着数の 7～8 月に最も増加し、8～9 月に大きく減少します。10 月以降、個体数は緩やかに減少していきませんが、付着個体の成長に伴い、付着重量は急激に増加していきます。なお、H28 年 7 月、11 月、R1 年 4 月は欠測。また、R2 年から調査期間を 6 月～翌 1 月までとしています。

図2 調査地点近傍（八雲沖3マイル）の6月の水温鉛直分布



6月の水温鉛直分布
R6年6月（赤線）のヨーロッパザラボヤの産卵水温（13°C：破線）を超えた深度層は、深度20mよりも浅い層であり、これは平年（青線）よりも約10m深い層に達しています。また、R6年6月の水温は全層で平年よりも高くなっていました。